

新体制に期待する

校長 九里 廣志

三月一日、新体制の役員の方々の御臨席の下、厳粛に同窓会入会式が執り行われました。役員席には、多くの女性役員と共に、一期生の近野靖雄君、四期生の高橋恵太君の二人の姿。そろそろ男子役員の活躍を期待している私にとって

は、とても嬉しい場面でした。

わが校の同窓会は四十回を数える音楽会の開催を始めとして、他校にはない様々な企画を確実にやってきた歴史があります。女性たちの、着実に、しかも細部に渡る気配りをして事を進める特性のなせる業でしょうか。しかし男子生徒が入学した時から、私は先がどうなるのかは見えない不安はあるけれど、果敢に行動する彼らのダイナミックさに、今までは無いものを感じていたものです。

最近の人間研究は、個人差こそが前提とはいえ、男女の違いをいろいろと解き明かしてくれています。脳の違いや、それに基づく行動の特性等々。違うからこそ一緒に考え、行動すると面白い。異質の男女の力がかみ合った時に、そこに生まれる発想、企画、そして実行などの爆発力と継続力は今までに無い相当なものになるはずですよ。『同じ学校に学んだ』というだけの集団だからこそその面白い発想に期待しています。



野球応援 2005.7.20 県営中山球場にて 酒田南と準々決勝戦

新副会長



西山 信子さん
(S45年卒)



塩野目 寿美子さん
(S36年卒)

人との出会いを大切に



同窓会長 佐藤 せつ
(S二十三年卒)

この度、九里学園高等学校同窓会会長に推挙され、浅学非才の身で誠に恥ずかしいかぎりですが、大役をお引き受けすることにいたしました。不安ではありますが、長い間同窓会を率いてこられました、前会長の竹田様からご助言をいただきながら一生懸命務めたいと思っております。

私は今、保育園の園長をしております。有意義な人生とは「よき人との出会い」を大切にすることとおもっております。人を信じ、人に愛されることが最大の生き方ではないでしょうか。

母校の活躍は、新聞・テレビ・インターネット等で詳しく知ることが出来、同窓生として嬉しく思っているところです。九里学園の「礼と謙」の精神を深く理解し、同窓生の方々との出会いを大切にしながら、学園を心から支援したいと思っております。

会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



前同窓会長竹田カツさんに感謝する会 (S13年卒) 2005.10.30



(36年間)

長い間ありがとうございました

十月三十日、三十六年間同窓会長を務めてこられた前会長「竹田カツさんに感謝する会」が現旧の先生方、関東地区の方々、そして多くの同窓生一〇名が集い、和やかにおこなわれました。

竹田さんは、全国農協婦人部長としての責務を果たされながら、我が九里学園の同窓会を率いてこられました。女性の役割、これからの生き方を世界的視野で見出し、研鑽を積んでこられました。また、農家のお嫁さんたちの地位と体力の向上のため、リーダーとして活躍されました。

こうした活動のなから培われたものが、同窓会にも反映されたことで、大きな行事であった「学園の米寿を祝う会」や、百周年の記念事業が成功のうちに導かれたのだと思われます。また、飯豊町から同窓会の毎年毎回の行事の成功にむけて二人の副会長さんともに尽力下さったことが、今日の九里同窓会の活力になつていったのだと思います。

会では、いつも忙しいスーパーパーおばあちゃんに、小さい頃毎晩本を読んでもらったという孫の環さんと優さんのお手紙が紹介されました。同窓会長として挨拶する姿は堂々として私達の誇りだったこと、そして、気丈に人生のいろんな波を越えてこられた姿をしつかりと孫の目で捉えられていました。最後に「おばあちゃん大好き」と書かれてあり、感動の渦となりました。

参加した誰もが感謝という気持ちに満ちた温かい会でした。

記念音楽会

9月13日

人生を紡ぎ

出すように

(H17年卒)

東海林 夏美



胡弓 ヤンシンシン 楊興新 コンサート

私は、弦楽が大好きです。今年の音楽会は、胡弓ということを早くから聞いていたので大変楽しみにしていました。主役の胡弓は、華奢な楽器だと思っていましたが、生で聴いてその考えが一変しました。たった二本の弦で、馬や、ニワトリの鳴き声がりアルに表現できるとに驚きました。

楊興新さんは中国の人ですが、日本語が上手で、演奏の前に必ずその曲の思い出や、故郷の話、家族の話をしてくれました。病気で亡くなった子供さんのことを奏でた「春を待つ」という曲は、興新さんの思いが伝わり、深く心に沁みしました。胡弓を弾く姿は、自分の歩いてきた人生をスポットライトの中で紡ぎだすような感じでした。「かけがえのないものが戻ることなく、忘れられてしまう。」といっていました。

ボーカルのYAEさんは、加藤登紀子さんの娘さんだそうです。澄んだ落ち着いた声でした。YAEさんは、「どんなに古くても大切なものは人の心に残り、人の手で生まれ変わる」といっていました。

私がこのコンサートでもらったものは、どんなに時間が過ぎてても、「人の心のどこかに生きていられる、そんな人間になりたい」というほのかな思いでした。

クラブ しょうかい

野球部



元気・勇気・笑顔

誰からも愛される

日本一の野球部を作ろう

創部六年目を迎える我が野球部は、今年の夏の甲子園予選山形県大会において、創部初のベスト8に入ることができました。厳しい練習に耐え、礼節を重んじ、高校生らしくさわやかに試合をする選手らに多くの先輩方からのご声援を頂きました。部員数も年々増え、九里から高校野球の聖地である甲子園を目指そうとする有志たちが日々練習に励んでいます。応援してくださる皆様に感動を与えられるような試合をお見せできるよう、今後も精進していきたいと思えます。

(監督 高橋左和明 記)

総会報告

新体制スタートする

六月二十五日(土) ホテルサンルート米沢で、同窓会総会が行われました。実行委員は、卒業年が「八」と「九」のつく学年で、実行委員長は佐藤タニ子さん(S三十九年卒)を中心に準備されました。参加者は九十名で、例年より少なかったのですが、内容は盛り沢山で、楽しい一時を過ごすことができました。

総会では、会報配布の地区組織づくりをさらに充実させていくことや、記念音楽会が今年四十回を迎えるということ、成功させる為の協力依頼がありました。また、役員改選で、会長が佐藤せつさん(S二十三年卒)に引き継がれ、副会

長は、塩野目寿美子さん(S三十六年卒)・西山信子さん(S四十五年卒)にバトンタッチされました。

研修会では、前会長の竹田カツさんから、「ゆたかさとは」と題して、長年の活動をおして本当の心のありようを話して頂きました。懇親会では手品と新制服の紹介があり、内容のあるいい総会になったと思います。



親子三代 九里です



二年間は勤労奉仕、終戦後そろばんと簿記の勉強をしました。九里が「米沢女子商業」といわれた時代の貴重な卒業生です。「学校で習ったおかげで就職でき、ずっと仕事を続けてこられた。」と話してくださいました。今も同窓生と月一回の食事を楽しんでおられるそうです。

真紀子さん達の学年は一番生徒が多かった時代で、十一組まであり、教室は階段教室でした。生徒会活動部活と忙しいけれど充実した高校生活だったそうです。現在保育士として活躍中ですが、保育の原点にあるのは平賀先生の楽しい授業、たそです。

愛美さんはまじめでおとなしい性格ですが、生徒会書記局長を務め上げました。「先生方の御指導のおかげです。医療関係の専門学校に進学しますが九里での経験を生かしていきたい。」と夢を語ってくださいました。創立七十五周年記念植樹で真紀子さん達が植えたヒマラヤ杉が、グラウンド西側に育っています。愛美さん達はその周りの草むしりをしてきたそうです。時代は変わっても九里の伝統が受け継がれている事を実感してきました。

(S四十六年卒 島山みち子 記)

- せいさんは昭和十九年小学校を出てすぐ九里に入学しました。
- 玉 木 せいさん (旧姓斎藤 S23年卒)
- 菅 井 真紀子さん (旧姓玉木 S52年卒)
- 菅 井 愛美さん (H18年卒)

職 場 訪 問



子供たちと じっくり向きあう

長井北中学校

養護教諭 黒 澤 恵 美さん を訪ねて (S52年卒)

今回は、長井北中学校で養護教諭として活躍の黒澤恵美さんを、お仕事での明るく開放的な保健室にお訪ねしました。黒澤さんは保健の先生として小・中学校と六校をまわり、二十五年になるそうです。小さい頃にひとの身体の不思議について興味を持った事をきっかけに看護の道を目指し、努力して養護教諭の資格を取られたそうです。かわいいオリジナルキャラの活躍する「保健室だより」は全て手書きで、お家で子供達に読み聞かせ、理解してほしいという願いに満ちていました。また、十年ほど前には骨の大切さをもっと知ってほしいという思いからお医者様と共同で本を出版されるなど、学校内に留まらず広く活躍です。

休み時間になると体育の授業で足をくじいた子や、ちよつと風邪をひいた子が次々に来ました。黒澤さんは、「よく頑張ったね」と優しく声をかけておられました。保健室を訪れるのは、身体の不調や怪我だけでなく家族・友達等、様々な悩みを抱えた子供も多く、それは年々増えているそうです。そんな疲れた子供たちとじっくりと向かい合い話を聞いている姿は母親のようでした。

(S五十九年卒)

新井千香代 記

(S36年卒)

御夫妻

ワイフを語る



片付け達人

小口 進

同窓会入会式

三月一日に卒業生一七五名の同窓会入会式が、男子一期生を含む同窓生一名が見守る中行われました。代表・鈴木真奈美さんの「九里の卒業生として誇りを持って社会に出ていきます」という清々しい誓いの言葉がありました。



私の仕事の関係で、転勤七回、引越は十二回にもなる。その荷造り、荷解きは、すべて彼女の役目であったため、とにかく片付け魔である。モノを捨てることにまったく躊躇しない。朝起きると前日の新聞は、ゴミ袋の中という具合で、私が大事な記事を思い出してあわてて袋から取り出すことがよくあった。転居先で見つからないモノは、即、諦めである。

元幼稚園教諭であったので童謡が大好きで、長男が生まれると、私にまで「……しなさい」と言う口調になり閉口したものであった。

また、役職を引き受けるのが好きで、子供の学校のPTA役員・町内会の役員等、ほとんど自発的に引き受けてくる。秋田では「PTA会長は男に限る」と言われたらしい。ダンナを置いてヨーロッパ旅行に出かけたりする行動派である。早寝早起き。それも、四時半起床は並ではない。こういう健康志向の人は決まって医者が好きである。成人病検診などは心待ちにしており、一度も欠かしたことがない。遠路大病院まで通うことも厭わない。この性格が私の健康への気遣いとなり、私は一度も単身赴任することなく仕事が出来、幸せであったと思っている。

私より長生きしてもらいたいものである。

お久しぶりです皆様 平賀秋夫先生からのメッセージ

このコラムに掲載のため探し出してきた二枚の写真。この学校に赴任した(一九六七年)頃と現在の私の顔。歳相応に老けたという変化の面白さより、ひ弱な頼りない未熟な顔の新米教員時代、そして学園の幹部にしては一寸軽い感じの現在の顔、四十年間あまり成長してないなと溜息をついた次第。

私達教員はこれまで多く



の生徒や保護者の顔を見つめ続け、顔をあわせた時の印象も相手を理解する大事な手がかりの一つとしてきた。顔や表情が物語るこの大切さを十分に体験してきたのに、自分の顔に今更たじろいでいる始末だ。それと共に、若かった頃の自分、目立ちたがり屋でそのくせ打たれ弱くて、ガクンと気落ちしたり、別な場面ではすぐカッとなったり、全く赤面の至りである。こんな私も四十年の長きに亘って学園に在職できたのは、昔の生徒や保護者の皆さんがとにかく立派で(これは絶対にお世辞ではなくて本当の話)、先生稼業が楽しい日々の連続だったからである。登山や修学旅行やスキー、海水浴などの行事の引率は、生徒たち以上にわくわくしたことを思い出す。それに魅力的な九里茂三先生夫妻をはじめ、「クンちゃん」「ガンちゃん」「ヒキツツアン」「トオチャン」「ベンチャン」「セイイツツアン」「佳子さん」「ヤッチャン」「ミッチャン」などの先輩や同僚のおかげである。

最近の世相は人間関係や身近な人同士の絆という点では大変難しい世の中だ。大人も子供も皆、そのことに緊張を強いられるような気がする。皆さんもそしてすべての本校の教員諸君も身近にいる大切な人、家族や同僚、生徒たち、友人のことを心から信じてあげて欲しい。そしてその輪を少しずつでも広げて欲しいと心から願っている。

注 ちなみに文中の諸先生の愛称は五島、遠藤岩根、引地、長瀬、伊藤勉、齋藤清一、齋藤佳子、八ツ賀、中村の各先生である。

アツキヨ 母校で歌う

2月8日



岩根先生の本「ふるさと」の詩

出版祝賀と先生に感謝する会

10月15日

昨年十月十五日「遠藤岩根先生の出版記念と励ます会」が東京第一ホテルで、盛大に開催されました。参加者は百八十五名で、岩根先生が初めて担任をされたクラスの方々の実行委員を務められました。

「ハゲます会」などと言う案内文であったため、会ではかなり笑いを取る場面もありました。会そのものは、まるで文化祭のクラス発表会といった感じ

の楽しい時間で、先生への感謝の気持ちに満ち、賑やかに過ぎていきました。

この日にあわせて出版された本は、「ふるさと」の詩」という題名で、教壇に立たれていた日々の事や、親としての想い、誰にも負けない愛情を持つ生徒と接してこられた優しい先生の気持ちなどがいっぱい詰まった本でした。皆様、是非ご一読ください。

(S五十二年卒 高橋 有子 記)

手話で表情豊かに

「僕たちア・ツ・キ・ヨです」と手話で始まったコンサートは、卒業を目前に控えた三年生の為に開かれたものです。日常の身近な風景を温かい眼差しで見つめた優しい歌詞をアツキヨさんの力強く歯切れの良い歌声とキヨミさんの新体操で培った表現力豊かな手話とが融合し、素敵なハーモニーとなっていました。

トークではキヨミさんが卒業生と言うこともあり、学生時代の思い出や新しくなった校舎や制服の感想、最近の活動等エピソードを交えた楽しいものでした。五月には、皆さんもおなじみの小椋佳さん作詞の新曲が出るそうで、レコーディングでは歌唱指導をして頂いたそうです。また、猪口大臣との面談では、キヨミさんの持ち前の臆することのない性格が出て、みんなを和ませたそうです。

最後に歌った「奇跡」という歌はキヨミさんが歌姫になる夢を諦めずアツキヨさんという最高のパートナーと巡り会い、皆に支えられながら頑張って掴んだ夢そのままの想いが詰まった曲でした。

(S五十九年卒 新井千香代 記)



編集後記

毎号、多くの方々の手で、会報を届けていただきありがとうございます。

一生懸命編集し、同窓生みんなが、元気が出る会報にしたいと思います。

どうか情報をお寄せ下さいますようお願いいたします。

●記念音楽会は、九月十三日(水)です。今年「ココロコ」のコンサートです。チケットの購入は係同窓生か、学校事務局へお願いいたします。

●旧交を温め、明日の活力をもらおう会です。多くの方々の参加をお願いいたします。

●同窓生の集いは六月二十四日(土)です。その会の運営担当は、卒業年に〇と一がつく学年(昭和二十、二十一、三十、三十一、四十、四十一、五十、五十一、六十、六十一、平成一、十、十一年)です。

●会報を配布して下さる方を募っています。特に上郷・塩井・川西・高島・長井地区で御協力いただける方がありましたら、御連絡を下さいますよう、お願い申し上げます。

